

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 食品生命科学科

職階 教授

氏名 石原淳子

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3 年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

私の教員としての責任は、学生がスキルと知識を身につけると同時に、学んだことが社会に役立つ楽しさを感じることで、自己肯定感をはぐくみ、自信をもって社会に出られることをサポートすることです。

学科では食の情報分野に関連する科目（公衆栄養学、公衆衛生学、疫学概論）および卒業論文、全学の地球共生系データサイエンス・同演習の他、オムニバス科目で地球共生論の1回分を担当しています。また、大学院では授業担当、および博士後期課程の大学院生2名の研究指導を行っています。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
フレッシュャーズセミナー	食品生命科学科	必修	1	49
地球共生系データサイエンス・同演習Ⅰ		自由	2	17
食品開発PBL実習	食品生命科学科	自由	2	27
公衆栄養学	食品生命科学科	必修	3	41
公衆衛生学	食品生命科学科	必修	2	56
科学者研究者論	環境保健科学専攻（博士前期課程）	必修	1	36
栄養疫学特論	環境保健科学専攻（博士前期課程）	選択	1	1
栄養疫学特別演習Ⅱ	環境保健科学専攻（博士前期課程）	選択	2	1
栄養疫学特別実験Ⅰ	環境保健科学専攻（博士前期課程）	選択	1	1
栄養疫学特別実験Ⅱ	環境保健科学専攻（博士後期課程）	選択	2	1
栄養疫学特別演習Ⅰ	環境保健科学専攻（博士後期課程）	選択	1	1
栄養疫学特別実験Ⅰ	環境保健科学専攻（博士後期課程）	選択	1	1

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

私の教育理念は、「科学的根拠に基づく食と健康に関する情報を見極め、そのスキルと知識をつかって社会に貢献する人材を育てる」ことです。食品生命科学科の学生の多くは、資格を持つ専門家としてではなく、様々な知識とスキルを活用して食に関連する幅広い分野で活躍するジェネラリストを目指しています。現実社会において、様々な観点から実践的な判断を求められる場面に遭遇した際、しっかりとした専門知識の軸と、科学的根拠を見極める力（サイエンスリテラシー）を持ち、科学的に正しい選択できる力を持ち、その力を社会に還元できる人材育成をしたいと考えています。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

上記の理念を実現するための教育の方法として、「知的好奇心からの動機付け」「社会実践につながる教育」「授業計画の見える化」「達成度の見える化」を行うことを心がけています。

「知的好奇心からの動機付け」

学生時代に栄養疫学を学び、面白い、楽しいと感じたことが自分の進路選択のきっかけになった経験から、学生にも経験を共有し、知的好奇心から学ぶことの楽しさを伝え、学習の動機づけにつなげるようにしています。

「社会実践につながる教育」

実践に近い分野、科目を担当しているため、実社会とのつながりを学生に感じてもらうことを重要視しています。そのため事例の調べ学習や実務家による事例の紹介などを取り入れるようにしています。学んだことが社会にどのように活用できるか、自ら考えて提案できるようにすることも重要であるため、調べ学習の発表とそれに対するフィードバックも大切にしています。

「授業計画の見える化」

個々の学生が学習を計画的に進めることにより、科目に対する学習の効果だけでなく、時間のマネジメントスキルも身に着けることができるようになります。そのために Web 上のシラバスのほかに詳細シラバスを配布し、予定（小テストや課題、発表の日程など）をあらかじめ提示し、学生がそれぞれのペースで学習計画を立てられるようにしています。

「達成度の見える化」

目標に対して達成度を学生本人が認識することで自己評価ができるようになり、自ら PDCA サイクルにのっとった学習を進めることが可能になります。そのため課題や発表については出来る限り早くフィードバックをするようにしています。

（1）アクティブ・ラーニングについての取組

有

授業トピックスに関連して、調べ学習、トピックに関する意見や考えなどをまとめる課題を出し、発表、意見交換を行った。

（2）ICTの教育活用

有

配布資料などの教材に加えて、授業内容関連する公的機関の資料、動画などの情報を AzaMoodle上に提示することにより、授業内容の理解と応用を促した。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

毎回の授業で、受動的な講義とアクティブラーニング（調べ学習）を組み合わせるようにし、講義はできるだけ簡潔に、見やすく、わかりやすく作成し、外部動画（公衆衛生や公衆栄養の取り組みの動画）なども活用し、受講生が気分を変えながら楽しくすべて視聴できるように心がけました。アクティブラーニングは、身近なトピック（例えば感染症対策の章では新型コロナ）について情報収集して課題をまとめ、次の授業にて発表する形式をとることで、能動的な学びを促す工夫をしました。

（２）学生の理解度の把握

A

単元ごとに小テストを行い、理解度の確認を行った。

（３）学生の自学自習を促す工夫

A

ガイダンスで全体の授業計画をあらかじめ示すとともに、毎回の課題と次回授業の予習（教科書の該当箇所）を示すことで、自主学習を促した。

（４）学生とのコミュニケーション

A

オフィスアワー以外の時間でも、メールで質問のあった際には、速やかに対応した。研究室への訪問の場合も丁寧に対応した。

（５）双方向授業への工夫

A

授業では、発表、意見交換や質問の時間を設け、双方向コミュニケーションに努めた。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）授業評価アンケート結果の授業への反映

授業評価においては全体的には好評で、自由記載コメントには、発表、ディスカッションに対する好意的な評価が得られたため、授業にできる限り取り入れるようにした。

（２）（１）の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

発表とディスカッションについては、最終評価でも好評だった。

（３）（２）を踏まえた次年度の取組

今後も同様に実施していく。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

私の担当する公衆衛生学や公衆栄養学などの科目では、自ら考え、情報収集し、情報から答えを導きだす、または改善案を考えることができるようになることが重要である。定期試験だけでなく、課題など多面的な評価を行うことで、考える力を評価でき、フィードバックによって学生自身がPDCAサイクルに基づき学習することで、成績向上につながると考える。

**(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組
に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック**

AzaMoodleを活用して課題のフィードバックを行い、全体的に成績が向上した。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

学内で実施される FD 研修会はもちろんのこと、ICT 教育に関する外部研修会などにも積極的に参加するようにしました。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

短期目標

遠隔授業において、学生と教員の双方で進んだ ICT の活用を、対面授業においても継続させ、教育効果の高い授業を模索し展開します。

長期目標

公衆衛生、公衆栄養の分野の面白さに気づき、将来、関連する分野で社会に貢献する人材を育成します。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

シラバス、教材、小テスト、課題、授業評価アンケート、授業に関するコメント